



# 雪谷の清流

平成30年9月5日発行  
岩手県立軽米高等学校通信 26号  
文責:副校長 松場 喜美夫

## 避難訓練 9月3日(月)



9月3日(月)7校時、本年度の避難訓練を実施しました。  
訓練では、①火災を想定した避難訓練、②実際の火を使った消火訓練、③救助袋を使った降下訓練の3つを行いました。  
避難訓練は、生徒は教室に居て、まもなく授業が始まるという設定。本館棟4階生物室を火元と想定して、発煙筒を焚いて煙を発生させました。火災発見の知らせを受け、先生方を教室に向かわせ、避難誘導をしました。避難の際は、用意したハンカチを顔に当てて、私語もほとんどなく整然と行動していました。

### 【火災発見時の手順】

- 1 まず、「火事だ」と大声で叫ぶ。
- 2 初期消火：消火器で消火を試みる。  
※天井まで火が達するようなら諦める。
- 3 避難する。

消火訓練では、各学年からの1名と職員1名が代表として消火器を扱いました。見学は風上側でしたが、火をつけると離れていても熱さを感じます。これが、屋内であれば熱と煙で気が動転してしまうかもしれません。訓練では皆、教えられた操作どおり火を消しました。消火剤は5mほどまで、15秒くらい噴射するそうです。



### 【消火器操作の手順】

- 1 安全ピンを引き抜く。
- 2 ホースの先端を消火器からはずし、火元に向ける。
- 3 レバーを握る(握力のない人は、消火器を置き上から体重をかける)。

### 【消火時の留意事項】

- 1 姿勢を低くして有毒な煙を吸い込まないようにする。
- 2 常に逃げ道を確保する。
- 3 炎の先端ではなく、火の根元に向ける。
- 4 箒で掃くように。 ※火元と空気を遮断する。
- 5 天ぷら油の場合は、消火剤噴射によって油が飛び散り危険なので、直接油にかけるとでなく、壁などにあてて間接的に油を覆う方法で行う。

救助袋を使った降下訓練には、各クラス1名が参加しました。

### 【降下時の留意事項】

- 1 地上の合図により、入口枠の上端を持って足から入り、両足を揃えて降下姿勢をとる。
- 2 袋の中に勢いよく入らない。加速が付いて出口で飛び出す危険があります。
- 3 降下中、両手を上にあげて右ひざを心持ち内側に曲げ、背中及び腰部で滑る。腕や足を広げたり突っ張ったりすると、急ブレーキが掛かり、袋内で回転することがあるので、絶対にしてはいけないこと。
- 4 袋との摩擦で擦り傷をおうことがあります。 ※訓練は長袖、長ズボンで

○二戸消防署軽米分署 日山 智嘉雄 分署長様から  
避難の際は、落ち着いて、無駄話もなく良かった。最後の人数確認で手間取ったようですが、おおむね良好でした。ハンカチ、タオルは必ず用意してください。煙は怖いです。有毒ガス、一酸化炭素など、思考能力を奪い、パニックを起こすこともあります。姿勢を低くして避難してください。上の階にいるほど煙が貯まります。(4階は)防火扉がしまっていた。いつも開いているところがしまっていたり、小さなドアがありますが段差もあるので注意してください。

2年生は修学旅行も控えています。3年生は受験などで知らないところに出かけたり宿泊したりすることもあるでしょう。非常口を確認する、指示を聞いて勝手な行動をしない。一人の身勝手な行動が全体のパニックを引き起こしたり、重大惨事につながります。

## グローバル人材育成のための講演会 8月20日(月)視聴覚室

夏休み明けまもなくの8月20日(月)7校時、本年度のグローバル人材育成のための講演会を実施しました。今回の講師は、元海外青年協力隊員 菅 智美 様でした。

菅さんは、海外青年協力隊としてマレーシアに派遣されました。

以下講演の抜粋です。一部データを追加しています。



### 【マレーシアについて】

マレーシアは、マレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする、人口3100万人の立憲君主制国家(国王はムハンマド5世)である。多民族国家で、マレー系60%、中国系25%、インド系10%という構成である。マレー語は、世界で3番目に簡単な言語と言われている。宗教は、イスラム教、仏教、キリスト教など多様である。季節は、乾季、雨季の2つしかない。

### 【海外青年協力隊について】

先進国が発展途上国に対して技術的・金銭的な援助を行っているのが政府開発援助(ODA)。その日本の政府開発援助を一元的に行う実施機関が、外務省所管の独立行政法人国際協力機構(JICA)で、開発途上国への国際協力を行っている。海外青年協力隊はJICAが行っている海外ボランティア派遣制度のこと。募集年齢は20~39歳、職種は120余り。任期2年、給与無し。2018年6月までに、91カ国、43,864名が派遣されている。岩手だけでも、75カ国、490名が派遣されている。

### 【世界の置かれている状況】

- ・5秒に1人が死んでいる。
- ・18歳以下の子ども兵士は80万人も居る。
- ・読み書きできない人は、7億7400万人。
- ・1年に失われる森林面積は、7万3000km<sup>2</sup>。
- ・戦争や紛争で避難しなければなくなった人の数は、1日3万2000人。

### 【マレーシアでの経験から】

- ・宗教の関係で、豚肉や牛肉を食べない。このため、鶏肉の消費量が多い。
- ・マクドナルドはあるが、ハンバーガーを置いていない店もある。ケンタッキーフライドチキンが多い。
- ・食事は基本的に手で食べる。
- ・トイレに紙が無く、ホースや桶の水を使う。

### 【まとめに代えて】

- ・大切なことは「違い」を受け入れること。
- ・協力隊で外国に行って、日本を「外」から見つめ直すことができた。
- ・何を伝えるかではなく、どう伝えるかが重要。
- ・問題や課題に立ち向かう力を身に付けることができた。

### ○生徒の感想から

- ・これまでグローバル化など深く考えたことがなかったけど、改めて国際的な交流や協力がとても大切だと分かった。
- ・自分の知らない国は日本より治安が悪く危険だと偏見を持っていましたが、お話を聞いて、限られた知識で勝手な偏見を持つのではなく、多様な視点から考え、正しい知識を持って世界に向き合わなければいけないと思った。
- ・トイレの話は衝撃的でした。
- ・今日の講演会を聞いて、もっと英語を勉強しようと思いました。